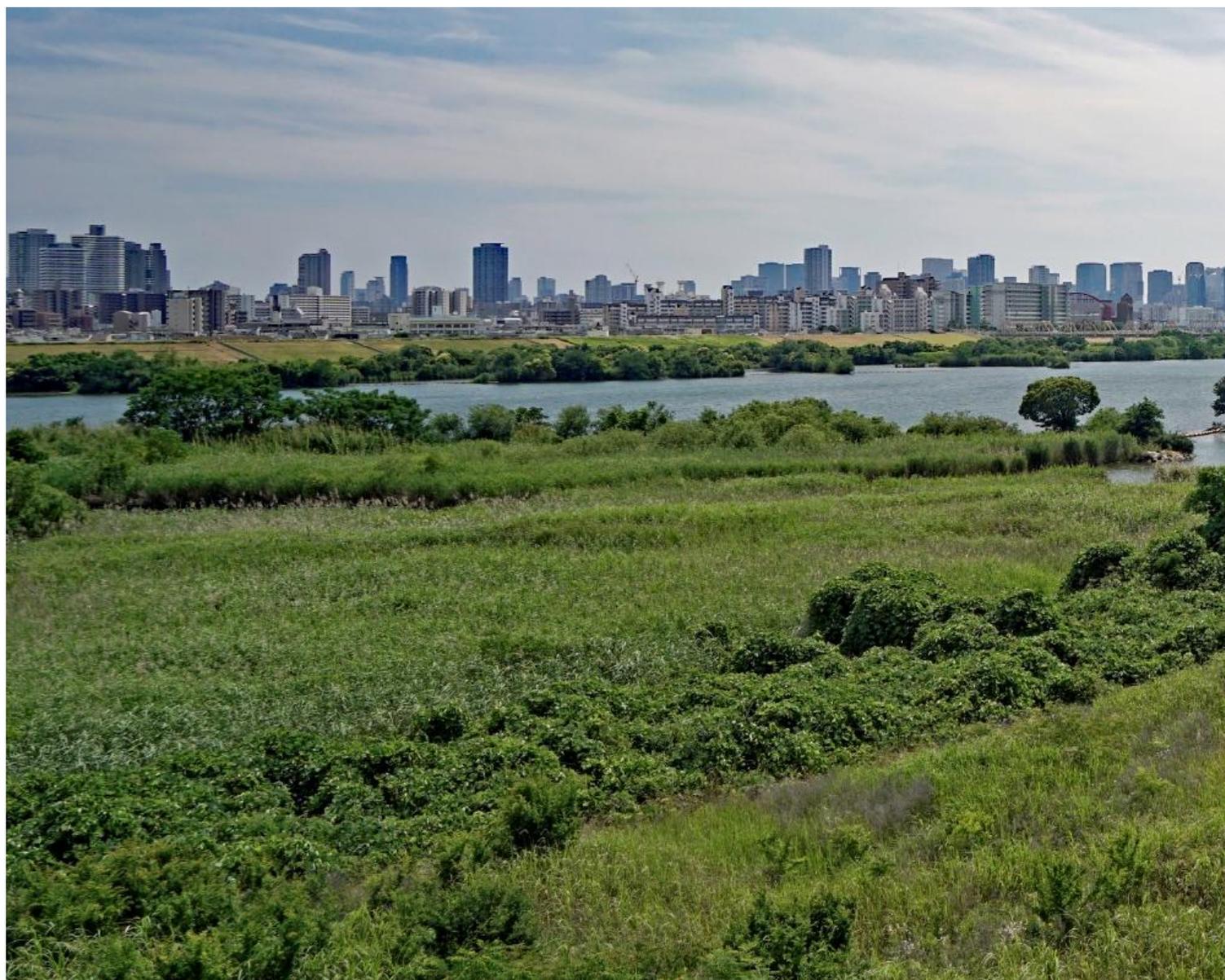


淀川の魅力ある 景観づくりに向けて



大阪府
平成31年3月



目次

はじめに	P2
1.淀川の変遷	P3
2.淀川の景観	
2-1 対象範囲.....	P5
2-2 景観の捉え方.....	P5
3.景観づくりの基本目標と基本方針	
3-1 基本目標.....	P7
3-2 基本方針.....	P7
4.淀川の魅力ある景観づくりに向けた様々な取り組み	
4-1 淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取り組み.....	P9
4-2 景観資源が持つ歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取り組み.....	P9
4-3 淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取り組み.....	P10
4-4 淀川の魅力ある景観を多様な主体が多様な手段により効果的に情報発信.....	P10
むすび	P11
参考資料 景観資源の活用事例	P12
淀川の魅力ある景観マップ1～3.....	P20



はじめに

大阪都市圏の都市空間創造に向けた大きな方向性を示すグランドデザイン・大阪都市圏では、広域連携型都市構造を踏まえた都市空間創造の例として、淀川において「沿川市町が持つ個性豊かなストックやポテンシャルを活かした様々な取組みを、関係者が連携して進めることで、一層の集客魅力あふれる都市空間を創造する」こととしています。

また、大阪府の景観形成の方向性を示す都市景観ビジョン・大阪では、「河川軸において、川とかかわりの深い周辺の歴史文化遺産等との調和やつながりを意識するなど、川との関係を活かした景観を形成するとともに、地域の特性や自然との共存、安全性に配慮した親水空間づくり、河川沿いの緑地の保全等を図る」こととしています。

さらに、淀川沿川を魅力あふれる都市空間とすることをめざし、沿川まちづくり団体等が自由に意見交換を行う場として設立された「淀川沿川まちづくりプラットフォーム（※P11参照）」において「淀川沿川広域連携型まちづくり戦略」が策定され、魅力ある景観の形成に取り組むこととしています。

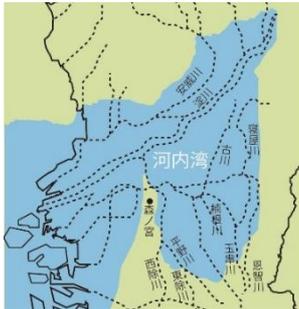
これらを踏まえ、淀川の魅力ある景観づくりを促進するため、自然、歴史・文化、沿川で営まれる様々な活動等の景観資源を広域的な観点から整理し、景観づくりにかかわるすべての人々が共有する基本目標や景観資源を活用した様々な取組み等を取りまとめた方針を示すものです。

2025年に大阪・関西万博の開催を控え、淀川が持つ景観魅力を多くの人に知って頂く絶好の機会であり、本方針を参考に、淀川にかかわるすべての人々が景観づくりに携わり、更なる景観魅力の向上につながることを期待しています。

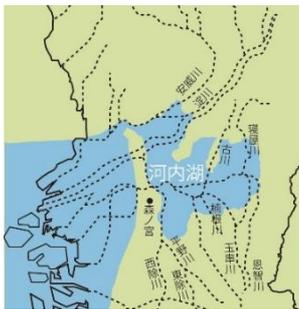
また、「淀川の魅力ある景観づくり」の取組みが、平成27年の国連総会で採択された「持続可能な開発目標（SDGs※）」の達成に貢献することを期待しています。 ※Sustainable Development Goals

1. 淀川の変遷

淀川は、その成り立ちとともに、古くから政治、経済、文化の中心として、様々な人の活動が営まれ、琵琶湖～瀬戸内海を結ぶ舟運のネットワークとして、多くの人や物が流域を往来してきました。



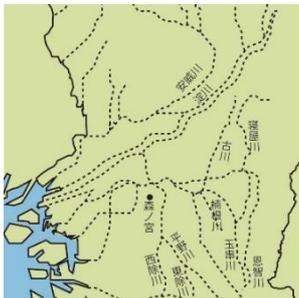
縄文時代前期
約7000年～8000年前



弥生時代後期
～古墳時代前期
約1800年～1600年前



江戸時代～明治時代
約400年～120年前



現代

○ 古代

およそ2万年前の大阪は、現在よりも海水面が低く、大阪湾や瀬戸内海は陸地でしたが、海水面の上昇により、海岸線が形成され、縄文時代前期になると、上町台地が半島のように突き出し、その東に河内湾ができました。縄文時代中期から、河内湾は、海面の後退とともに、北東から淀川、南東から大和川などが運ぶ土砂の堆積により徐々に埋まっていきました。縄文時代末期には、河内湾が大阪湾と切り離され、弥生時代中期には、淡水化し河内湖となりました。

古墳時代に入ると、中国大陸や朝鮮半島との貿易が始まり、淀川が合流する河内湖と瀬戸内海の間に運河（難波堀江）が掘削されました。この運河の途中に建設された難波津は、古代日本の玄関口としての役割を果たし、大阪は外交・交通の中心地となりました。

○ 中世

中世の大阪平野には、いくつもの川が縦横無尽に流れており、淀川は平安時代の頃から、瀬戸内海や西国と京の都を結び交通の大動脈としての役割を担っていました。大阪は「水の都」として発展し続けましたが、その一方で、洪水がたびたび発生し、大きな被害に見舞われていました。

この頃の淀川には、いたるところに上流から流れてきた土砂が溜まってできた浅瀬があり、船の交通路としては不安定なものでした。このため、流域各地で、多くの住民が力を合わせ、川底に溜まっている土砂をさらったり、土地の埋め立てを行いました。また、淀川の水は農作にとっても重要な資源でした。

○ 近世

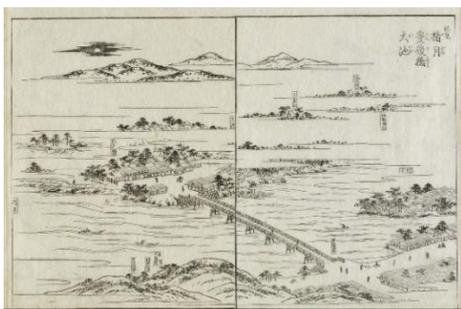
近世の大阪平野は、日本の政治・経済・文化の中心の1つであり、淀川はその発展の重要な基盤でした。

豊臣秀吉は、1594年、伏見城築城の際、伏見港の繁栄と巨椋池の洪水を防ぐことを目的とした「太閤堤」を築きました。

また、秀吉は、連続した堤防がなかった淀川左岸に、枚方から長柄に至る連続した堤防「文禄堤」を築きました。これにより、河内平野は氾濫から守られるとともに、堤防の上は、京街道として大阪と京都を最短で結ぶ安定した交通路となり、多くの人が行き交いました。右岸の西国街道とあわせて、街道沿いは宿場町として発展しました。

江戸時代に「天下の台所」として栄えた大阪では、縦横に流れる川が、物流ネットワークとして機能し、現在の大川・中之島付近には、諸藩の蔵屋敷が建ち並びました。大阪・八軒家から京都・伏見までを航路とする三十石船で、全国から大阪に集まった物資や物産は京の都へ、都の文物は大阪へと運ばれ、経済の大動脈としての役割を果たしていました。

こうして、淀川の恩恵を受けて、淀川兩岸のまちが発展していきました。



大池（巨椋池） 都名所図会
（資料提供：国際日本文化研究センター）



（八軒家）
淀川兩岸一覽（1861年に描かれた名所図絵）



（柱本）

○ 明治期

明治期の淀川は土砂堆積によって川床が上昇し、航路として機能していませんでした。

これらを解消するため、明治8年から、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーケが中心となり、日本で初めて水制工により、水路を蛇行させ、流れを緩やかにする淀川修築工事が行われました。これにより、川の流れは中央に集まり、蒸気船の航路の水深は確保されました。水制工に土砂等がたまり、偶然にもワンドが形成され、水生生物が育ちやすい環境ができました。

また、明治18年の洪水による大きな被害で、明治29年に河川法が制定され、上流から下流まで流域全体を見据えたスケールの大きい考えに基づく淀川改良工事が始まりました。この工事では、新淀川の開削のほか、毛馬閘門と毛馬洗堰の建設などが行われました。

大阪市で上水道が通る明治28年まで、大阪の人々は飲用水として淀川の水を飲んでいました。次第に、人々の生活用水の確保、伝染病の防止、火災への対応といった声に応えるため、淀川の水を水源とした上水道が開業しました。

○ 昭和期～現代

淀川の水質は、生活排水や工場排水などが原因となり、昭和30年代から急速に悪化しましたが、昭和40年代以降、下水道整備が進められ、住宅からの排水が浄化処理されるようになったことで、水質は回復しました。これにより、河口域では、漁業が再開され、現在も大阪の食文化を支えています。

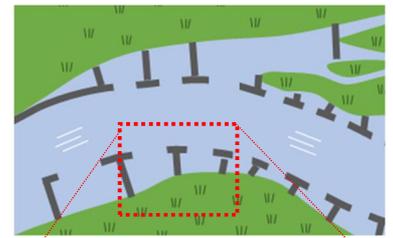
また、水制工によって、蛇行させられた淀川（写真A）は、大阪を洪水から守るため、本流の幅が大きく広げられ、直線化（写真B）されました。その結果、洪水による被害は大幅に軽減されました。一方で、生き物にとって大切な湿地環境が減ることとなりましたが、献身的な住民の方々の取組み等もあり、その環境は少しずつ改善されています。

かつて盛んだった舟運は、自動車や鉄道の発展、橋梁の完成等とともに衰退していきましたが、近年では、観光船の定期便が復活し、今後淀川沿川の更なる発展が期待されています。

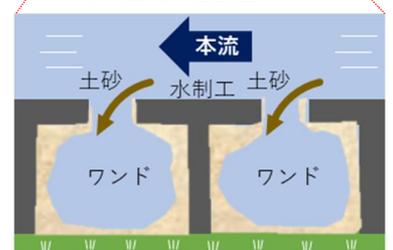
また、淀川では、河床維持のために、定期的に川砂の採取が行われており、コンクリートの材料として、高度成長期からハードづくりの礎を担い、舟運の航路確保にも欠かせないものとなっています。

現在は、自然豊かな地域から河川公園等の様々な活動がみられる地域まで多様な特徴を持ち、干潟やワンド等には琵琶湖・淀川水系の固有種や希少種を含む、様々な生き物が生息しています。

このように、淀川は人々の暮らしと密接にかかわりながら、私たちに様々な恵みをもたらしてくれています。一方で、淀川の歴史は、度重なる洪水などによる水害との戦いの歴史でもあったとも言えます。



水制工の平面配置イメージ



水制工によるワンド形成のイメージ



写真A：淀川の河道(1971年)
(国土地理院の空中写真を加工して作成)



写真B：淀川の河道(2006年)
(国土地理院の空中写真を加工して作成)



淀川の希少種 イタセンパラ



シジミ漁
(写真提供：大阪市漁業協同組合)



献身的な住民の方々の取組み



大川の観光船

2.淀川の景観

淀川には、四季に富んだ自然や、様々な歴史・文化資源、時間帯や見る場所によって多彩な表情を見せる構造物や建築物があります。

また、これらの静の景観だけではなく、自然保全やにぎわいの活動、自転車や日常の人の動き、舟運や鉄道などの動の景観も、淀川の景観を考える上で重要な要素です。

そこで、淀川にかかわる「コト」すべてが景観づくりにつながると捉え、淀川で活動するすべての人々の取組みの参考となるよう、淀川の景観を捉える際の方考え方を示します。

2-1 対象範囲

河口（淀川距離標0.00km地点）から伏見（三栖閘門付近）までと、現在、舟運が就航している、旧淀川である大川の一部（八軒家浜～毛馬閘門）を含む範囲とします。



2-2 景観の捉え方

景観を捉える上で、淀川本来の自然環境をベースに、目に見えるものだけではなく、景観資源がもつ、歴史・文化等の社会的背景やその成り立ちも含めて考えることが重要です。

また、淀川の治水・利水の機能や淀川が生物の生育の場であることを理解した上で、景観を捉えることが重要です。

そこで、淀川の景観資源を次の4種に分類して、淀川の景観を考えることとします。

- ①自然・生物 : 夕日・朝日、川面、ワンド、干潟、ヨシ原、野鳥、野草 など
- ②都市・インフラ : 橋梁、建築物、船着場 など
- ③歴史・文化 : 渡し船跡の碑、洪水碑、歴史的建造物 など
- ④活動・にぎわい : 河川空間を活用したイベント、舟運 など



さらには、景観は複数の要素（空、山、構造物等）の組み合わせによって構成されており、これらの関係（形、色、組み合わせ等）を意識し、季節、時間帯などの時間軸も考慮して景観資源の魅力を整理（夜景、夕日、桜、イベント等）することが重要です。

淀川的主要景観資源

	自然・生物	都市・インフラ	歴史・文化	活動・にぎわい
遠景	<input type="checkbox"/> 空（青空、星、月） <input type="checkbox"/> 山並み <input type="checkbox"/> 海岸 <input type="checkbox"/> 夕日・朝日 <input type="checkbox"/> 災害（増水など） <input type="checkbox"/> 天候（晴れ、雨、雪など） <input type="checkbox"/> 川霧 <input type="checkbox"/> 川面（反射、波、きれいな水など） <input type="checkbox"/> 淀川河川公園 <input type="checkbox"/> 法面の花、緑地 <input type="checkbox"/> ワンド <input type="checkbox"/> ヨシ原 <input type="checkbox"/> 干潟 <input type="checkbox"/> 背割堤 <input type="checkbox"/> 桜（紅葉） <input type="checkbox"/> 遊歩道 <input type="checkbox"/> 野鳥 <input type="checkbox"/> 野草（スキ、彼岸花など） <input type="checkbox"/> 昆虫 <input type="checkbox"/> 水生生物（カニ、貝など）	<input type="checkbox"/> 超高層ビル群 <input type="checkbox"/> 大規模建築物等 ・さきしまコスモタワー ・梅田スカイビル ・グランフロント大阪 ・レッドホース オオサカ ホイール ・高圧鉄塔 など <input type="checkbox"/> ひらかたパーク（大観覧車） <input type="checkbox"/> 淀川河川公園 <input type="checkbox"/> 浄水場 <input type="checkbox"/> 橋梁 <input type="checkbox"/> 水管橋 <input type="checkbox"/> 淀川大堰 <input type="checkbox"/> 閘門・水門・排水機場 <input type="checkbox"/> 取水施設 <input type="checkbox"/> 煙突 <input type="checkbox"/> さくらであい館 <input type="checkbox"/> 水位観測所 <input type="checkbox"/> 緊急用船着場 <input type="checkbox"/> 工作物（看板など）	<input type="checkbox"/> 淀川兩岸一覽 <input type="checkbox"/> 都名所図会 <input type="checkbox"/> ひらかたパーク（大観覧車） <input type="checkbox"/> 堤 <input type="checkbox"/> 橋梁のライトアップ <input type="checkbox"/> 神社仏閣（石清水八幡宮 など） <input type="checkbox"/> 旧毛馬第一閘門 <input type="checkbox"/> 造幣局 <input type="checkbox"/> 三栖閘門 <input type="checkbox"/> 渡し船跡の碑 <input type="checkbox"/> くらわんか発祥地碑 <input type="checkbox"/> 洪水碑 <input type="checkbox"/> 爆弾池（ <input type="checkbox"/> 三十石船唄）	<input type="checkbox"/> 飛行機 <input type="checkbox"/> なにわ淀川花火大会 <input type="checkbox"/> 鉄道 <input type="checkbox"/> スポーツ ・サイクル ・野球 ・ジョギング ・散歩 など <input type="checkbox"/> ワンド・ヨシ原保全活動 <input type="checkbox"/> 舟運 <input type="checkbox"/> 水上アクティビティ（カヌー、SUPなど） <input type="checkbox"/> 水防活動 <input type="checkbox"/> 河川空間を活用したイベント活動 ・淀川アーバンキャンプ、 ・淀川わいわいガヤガヤ祭 ・平成OSAKA天の川伝説 など <input type="checkbox"/> 漁業（シジミ漁、うなぎ漁など） <input type="checkbox"/> 釣り
近景				

3.景観づくりの基本目標と基本方針

淀川の魅力ある景観づくりを進めていくためには、淀川で活動するすべての人々が誇りと愛着を持ち、沿川にある多様な魅力的な景観資源を守り、育て、活用していくことが重要です。

そこで、沿川の住民、まちづくり団体、企業等が景観づくりに携わる際の基本目標と基本方針を定めます。

3-1 基本目標

だいかせん よどがわ
「大河川・淀川の景観魅力の向上を通じた、
多くの人々が享受できる様々な恵みの保全と創造」



菅原城北大橋付近



背割堤の桜

3-2 基本方針

1 淀川の豊かな自然環境の保全や再生への意識を共有し、地域の特徴を活かした取組みの促進

ワンドや干潟の役割や保全活動の重要性について情報発信するとともに、自然が身近に感じられる取組みを促進することで、淀川への関心や愛着を育てます。



城北ワンド



清掃活動

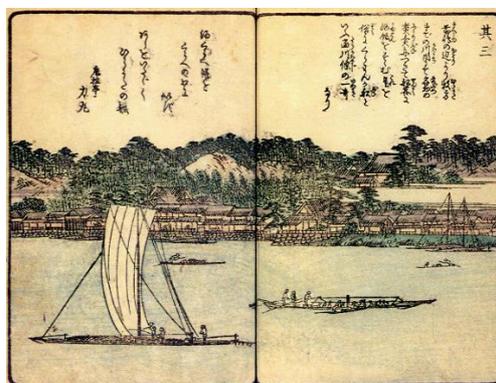
(写真提供：ねや川水辺クラブ)

2 淀川の歴史や文化等のストーリー性を楽しめるようにすることで、景観資源の魅力を高める取組みの促進

景観資源が持つ歴史的な背景やその成り立ち等をあわせて発信したり、景観資源が持つ特徴を活かす工夫をすることで、多様な人々の関心をひく仕掛けづくりを行います。



三栖閘門



淀川兩岸一覽

3 淀川沿川の多様な景観資源を効果的に活用し、多様な主体が連携しながら、川とまちが一体となったまちづくりの促進

多様な主体が連携し、川と人をつなぐ活動を継続的な取組みとすることで、新たな景観を創出し、景観魅力あふれるまちづくりを促進します。



淀川河川公園 枚方地区



緊急用船着場を活用したまちづくり団体間の交流

4 淀川の魅力ある景観を多様な主体により効果的に情報発信

淀川の景観魅力や各地域で行われている様々な取組みを、多様な主体が、多様な手段により、効果的に情報発信することで、他の方針にかかる取組み、まちづくりを促進します。



さくらであい館
(写真提供：八幡市)



まちづくり団体、企業等による情報発信

4.淀川の魅力ある景観づくりに向けた様々な取組み

淀川では、多くの住民、まちづくり団体、企業等が、魅力ある景観づくりにつながる活動に取り組んでいます。今後、更なる景観魅力の向上に向け、様々な主体がそれぞれの役割の中で、景観づくりに携わることができる取組みを示します。

なお、取組みを実施する際は、天候の悪化、河川の増水等に配慮し、安全性を確保することが重要です。

4-1 淀川が持つ豊かな自然景観を維持・保全する取組み

○自然景観を維持・保全していくためには、沿川の住民や企業が担い手となり、自然保全活動等に取り組むことが重要です。そのため、淀川への関心や愛着を高め、自然保全に対する意識の向上を図る取組みを促進します。

- ・学校や地域活動の場を通じた自然保全等の河川教育
- ・企業と共同した清掃活動 など

○淀川の自然景観を楽しむことができる取組みや、河川空間が日常的生活空間として利用される取組みを促進することで、淀川が持つ自然景観への関心を高め、自然保全の意識の向上を図る取組みを促進します。

- ・地域住民参加で取り組む河川が日常的生活空間として利用されるための仕掛けづくり
- ・気球からの自然景観の観賞等、自然の雄大さを感じることができる新たな視点場の創出 など



地域団体による自然体験学習



企業等による清掃活動
(写真提供：ねや川水辺クラブ)



気球からの自然観賞
(写真提供：淀川河川公園管理センター)

4-2 淀川の景観資源を持つ、歴史、文化等の特徴を活かした景観魅力を向上させる取組み

○目に見える景観だけでなく、過去の情景や歴史的な背景等をあわせて伝えることで、景観資源の魅力を高め、多くの人の関心を引く取組みを促進します。

- ・景観資源が持つ歴史・文化的背景等の特徴を記した景観マップの作成
- ・デジタル古地図等の活用による船内コンテンツの充実
- ・かつての三十石船と同じ航路の観光船など更なる舟運の拡大 など

○景観資源に新たな魅力を付加することで、新たな景観を創出する取組みを促進します。

- ・橋梁などの土木構造物をライトアップすることによる、新たな夜間景観の創出



新撰増補大坂大絵図（元禄4年）
(資料提供：大阪市立図書館)



舟運
(写真提供：一本松海運株式会社)



天満橋（大川）のライトアップ

4-3 淀川の景観を楽しむことができる活動・にぎわいを創出する取組み

○淀川が持つ景観魅力を感じながら、スポーツやレジャーを体験できる取組みが継続的に行われることで、人の活動そのものが淀川の新たな景観となるようにします。

- ・河川空間において、淀川の雄大な自然を満喫できるスポーツ大会、キャンプの実施
- ・淀川の魅力や河川ならではの体験ができるイベントの実施 など



河川空間でのマラソン大会
(写真提供：大阪・淀川市民マラソン)



ヨシ舟制作と淀川くだりの活動
(写真提供：水都の会)



淀川クルーズ
(写真提供：淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会)

○淀川周辺で行われているまちづくり活動やイベントと連携した活動やにぎわいを創出することで、新たな景観を創出するとともに、周辺のまちづくりにもつながる取組みを促進します。

取組事例：枚方宿におけるくらわんか五六市とみなと五六市の連携



みなと五六市



枚方宿みなと五六市マップ
(資料提供：淀川河川事務所)



くらわんか五六市

4-4 淀川の魅力ある景観を多様な主体が多様な手段により効果的に情報発信

○行政、まちづくり団体、企業等が、景観の特徴や見ごろとなる季節・時間帯などを積極的に発信するとともに、沿川住民や来訪者がSNS等で拡散したくなるような情報発信を促進します。

○情報発信の対象や目的にあわせて、人、もの、メディア、場所等の多様な手段による情報発信をおこないます。

- 人：環境学習・防災学習の場を通じた発信等
- もの：包装紙裏面に淀川沿川の魅力ポイントを印刷してPR等
- メディア：HP・SNSによる発信等
- 場所：観光スポット・イベント、電車等における発信等



河川学習



SNSによる情報発信

○まちづくり団体や淀川に誇りや愛着を持ち情報発信に精通した人等と連携し、景観資源にまつわる地域固有の情報等を発見、発掘し、淀川の新たな景観魅力として発信します。

むすび

淀川の沿川で様々な活動に取り組まれている、淀川沿川まちづくりプラットフォーム^{※1}メンバー等の皆様が、本方針を参考に、景観づくりにつながる取組みを先導的に進めることで、他の企業やまちづくり団体等の取組みにつながることを期待しています。

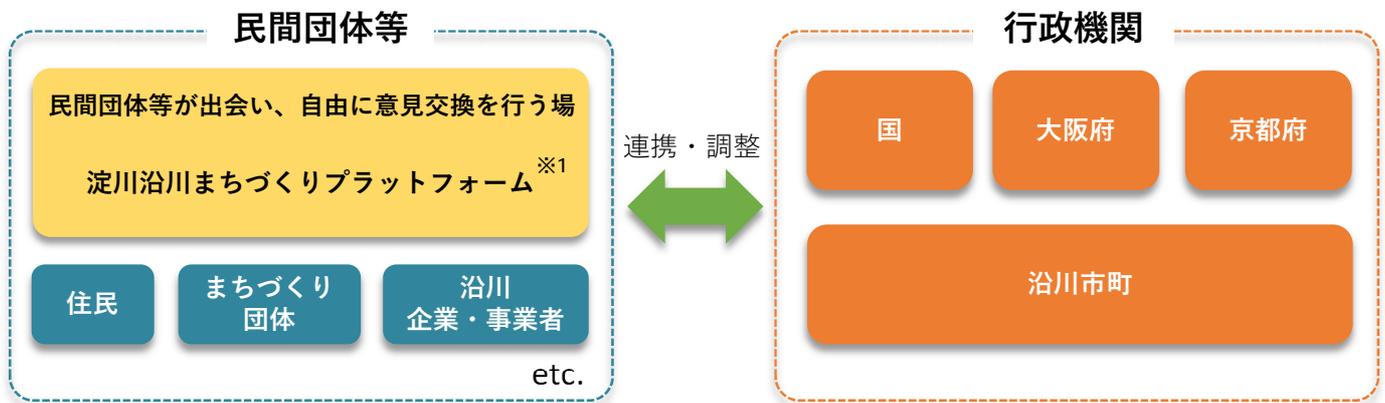
大阪府は、国や淀川沿川の自治体等と協力し、自然環境・景観の保全や都市インフラ・建築物の景観への配慮、各地域の取組みの相互交流等について調整を図ることで、これらの取組みを支援し、広域的な景観づくりを促進していきます。

本方針に記載の内容については、更なる淀川の魅力ある景観資源の発見、発掘に努め、必要に応じて更新していきます。

なお、大阪府をはじめ、各景観行政団体^{※2}では、景観法に基づく良好な景観の形成に取り組んでいます。詳細については、各景観行政団体の景観計画、条例、方針等をご参照ください。

<景観づくりの取組みイメージ>

淀川で活動する人すべてが景観づくりのプレイヤー



※1 淀川沿川まちづくりプラットフォームは、沿川のまちづくり団体や舟運事業者等で構成され、八軒家浜から枚方までの舟運復活を契機に、淀川沿川の将来像を共有することを目的とし、2017年8月に発足しました。淀川沿川の地域資源を活かし、その価値を高め、広域的な視点でつなぐことで、魅力あふれる都市空間を創造し、まちづくりを推進することを基本目標に掲げ、定期的に意見交換や連携事業が行われています。

【構成員】(令和2年3月 一部、時点修正)

- ・NPO法人 伏見観光協会
- ・一般社団法人 八幡市観光協会
- ・大山崎ふるさとガイドの会
- ・ふるさと島本案内ボランティアの会
- ・公益社団法人 高槻市観光協会
- ・NPO法人 枚方文化観光協会
- ・淀川わいわいガヤガヤ祭実行委員会
- ・ねや川水辺クラブ
- ・守口門真歴史街道推進協議会
- ・なにわ淀川花火大会運営委員会
- ・石清水なつかしい未来創造事業団
- ・京街道にぎわいづくり連絡会議
- ・大阪・天神祭実行委員会
- ・一本松海運(株)
- ・伴ピーアール(株)
- ・京阪ホールディングス(株)
- ・旅Tomo-Planning
- ・大阪水上バス(株)

【オブザーバー】

- ・国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所
- ・淀川河川公園管理センター
- ・京都府
- ・大阪府
- ・京都市
- ・八幡市
- ・大山崎町
- ・枚方市
- ・寝屋川市
- ・守口市
- ・島本町
- ・高槻市
- ・摂津市
- ・大阪市
- ・水都大阪コンソーシアム
- ・阪急電鉄(株)
- ・摂南大学

【事務局】

- ・大阪府 住宅まちづくり部 都市空間創造室

※2 対象範囲内の市町のうち景観行政団体は、大阪市、寝屋川市、枚方市、高槻市、京都市です。その他の沿川の市町においては、大阪府の景観計画や独自の施策等により、景観行政に取り組まれています。

■参考文献

○国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所HP

(<http://www.kkr.mlit.go.jp/yodogawa/index.html>)

○水都大阪コンソーシアムHP

(<https://www.suito-osaka.jp/index.php>)

○一般社団法人大阪建設業協会HP

(<https://www.o-wave.or.jp/public/history/history01.html>)

○すみよし歴史探検地図「住吉歩けば歴史に当たる」P9

(<http://www.city.osaka.lg.jp/sumiyoshi/page/0000078996.html>)